

「改訂3版 モデル植物の実験プロトコール」正誤表

上記の書籍について、訂正箇所がございました。以下に訂正致します。

2011年7月現在の変更点

200 ページ（「4-2 ハイブリダイゼーション」4）：

（誤）ハイブリダイゼーション溶液160 μ lとプローブ溶液40 μ lをピペッティングまたはボルテックスミキサーでよく混ぜる。*¹⁰」

→（正）ハイブリダイゼーション溶液160 μ lとプローブ溶液40 μ lをピペッティングまたはボルテックスミキサーでよく混ぜる。*¹⁰ スライドグラス上に200 μ lの溶液をのせ、泡が入らないように注意してカバーグラスをかぶせる。（*¹⁰の「スライドグラス上に200 μ lの溶液をのせ、泡が入らないように注意してカバーグラスをかぶせる。」は削除）

2005年7月現在の変更点

60ページ（「1-1 EMSによる突然変異の誘発」5）：

（誤）300mIEMSを加える。

→（正）300 μ IEMSを加える。

188ページ（「準備、ハイブリダイゼーション溶液」）

（誤）脱イオン化ホルムアミド 200 μ l

→（正）脱イオン化ホルムアミド 300 μ l

2005年4月現在の変更点

179ページ（右脇の注（*2））：

（誤）*2 制限酵素処理が不完全であると、

→（正）*2 酵素処理が不完全であると、

181ページ（図1「X-Glucを用いたGUS活性の検出反応」）

（誤）D-グルクロン酸

→（正）D-グルクロン酸

182ページ（1行目）

（誤）また、酸化性物質なしの条件では、ペルオキシダーゼなどが強く発現する。酸化能の高い組織で優先的にGUS活性が検出されてしまうことや、

→ (正) また、酸化性物質なしの条件では、ペルオキシダーゼなどが強く発現する (句点トル) 酸化能の高い組織で優先的にGUS活性が検出されてしまうことや、

182ページ (「準備, GUS染色溶液」)

(誤) 5mM以下 potassium ferricyanide

5mM以下 potassium ferrocyanide

→ (正) 5mM potassium ferricyanide

5mM potassium ferrocyanide

239ページ (図3「簡便なカラムクロマトグラフィーの方法」説明文3行目)

(誤) 試験管の上に直接のせるもよい (B) .

→ (正) 試験管の上に直接のせてもよい (B) .

239ページ (図4「発現レベルの低いタンパク質を精製した例」説明文1行目)

(誤) 抽出液 (input画分) 中には組換えタンパク質のバンドを容易に認めることができない (白矢印).

→ (正) 抽出液 (input画分) 中には組換えタンパク質のバンドを容易に認めることができない (白矢印) .

241ページ (「トラブルシューティング」14行目)

(誤) かずさDNE研究所

→ (正) かずさDNA研究所

242ページ (「TS 4」8行目)

(誤) ロシュダイアグノスティック社

→ (正) ロシュダイアグノスティック社